

- 1 「情報アクセシビリティ好事例2025」一覧
- 2 「情報アクセシビリティ好事例2025」として取り上げる
主なポイント
- 3 各製品の概要・審査結果

① 「情報アクセシビリティ好事例2025」
選定製品 一覧

No	企業名	製品名	製品概要
1	株式会社アイ・オー・データ機器	Memet	主に高齢者が、遠隔地に住む家族とテレビ電話ができるコミュニケーション支援機器。
2	株式会社アルカディア	ボイスエイド2	ALSや脳卒中の後遺症などで発語が困難な方向けの、携帯用会話補助装置。
3	特定非営利活動法人位置情報サービス研究機構	時刻表カウントダウンアプリ「駅.Locky」	駅における次の電車の発車時刻までの残り時間を、大きな文字とシンプルなインターフェースで表示する時刻表アプリ。
4	株式会社イル	みまもり イル!	インソール型のGPSトラッカーで、高齢者のみまもり、行動分析、活動量測定、徘徊時の検索効率化ができるサービス。
5	認定NPO法人ウィーログ	WheeLog!	ユーザー投稿型のバリアフリーマップアプリで、車いすで走行可能なルートやバリアフリー設備の情報を共有できるプラットフォーム。
6	株式会社コンピュータサイエンス研究所	視覚障がい者歩行支援アプリ EyeNavi	スマートフォンのカメラ映像をAIが解析し、交差点の信号状態や進行方向、障害物など周囲環境を音声で案内する歩行支援アプリ。
7	ソノヴァ・ジャパン株式会社	デジタルワイヤレス補聴援助システム「ロジャー タッチスクリーンマイク 3」	タッチスクリーンによってどのマイクの音声を届けるか容易に切り替えることができるワイヤレスマイクシステム。
8	合同会社ファービヨンド	トイレ情報共有マップくん	トイレの場所や設備情報をユーザー同士で共有・検索できるスマートフォンアプリ。
9	株式会社フォーバル	きづなパートナー	高齢者に貸与したタブレットを遠隔操作し、オペレーターが管理システムより遠隔操作及び、ビデオ通話を通して生活支援をするサービス。

No	企業名	製品名	製品概要
10	株式会社ユニティ	あそんでまなぶ！ for スクール	知育アプリ「あそんでまなぶ！」シリーズを教育機関向けに提供するサービス。
11	株式会社よむべえ	文字認識音声拡大読書器 快速よむべえ	カメラで印刷物を読み取り、文字と音声で読み上げ、画面で大きく表示する音声と拡大表示両用の読書器。
12	GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社	電子印鑑GMOサイン	電子文書(PDF)を契約当事者双方で確認し、ボタンをクリックするだけで契約を締結できる電子契約サービス。
13	Hubbit株式会社	話せる伝言板「ケアビー」	主に高齢者が、遠隔地に住む家族とテレビ電話ができるコミュニケーション支援機器。
14	KDDI株式会社	My auアプリ/My UQ mobileアプリ	特定の携帯電話会社を利用する際に、契約内容の確認や手続きを行うためのスマートフォンアプリ。
15	株式会社SmartHR	SmartHR 勤怠管理機能	クラウド人事労務ソフト「SmartHR」における、見やすさ・視認性に配慮した勤怠管理機能。
16	TDI株式会社	D-HELO	災害発生時に、個人のスマートフォン・スマートウォッチへ振動と画面表示で緊急情報を配信するシステム。
17	Uni-Voice事業企画株式会社	耳で聴くWebサイト	既存のWebサイトやドキュメントを「耳で聴いてわかる」ように、音声読み上げ形式のWebサイトとして提供するサービス。

② 好事例として取り上げる主なポイント

「情報アクセシビリティ好事例2025」として 取り上げる主なポイント

審査項目(1)製品の情報アクセシビリティへの配慮

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

- **移動の不自由や制約を解消し、安全・安心な暮らしを支える**
＜主な機器・サービス＞

No	企業名/機器サービス名
3	特定非営利活動法人位置情報サービス研究機構『時刻表カウントダウンアプリ「駅.Locky」』
4	合株式会社イル『みまもりイル!』
5	認定NPO法人ウィーログ『WheeLog!』
6	株式会社コンピュータサイエンス研究所『視覚障がい者歩行支援アプリ EyeNavi』
8	合同会社ファービヨンド『トイレ情報共有マップくん』
16	TDI株式会社『D-HELO』

- **状況や身体的制約を超え、円滑なコミュニケーションを実現する**
＜主な機器・サービス＞

No	企業名/機器サービス名
1	株式会社アイ・オー・データ機器『Memet』
2	株式会社アルカディア『ボイスエイド2』
7	ソノヴァ・ジャパン株式会社『デジタルワイヤレス補聴援助システム「ロジャー タッチスクリーン マイク 3」』
9	株式会社フォーバル『きづなパートナー』
13	Hubbit株式会社『話せる伝言板「ケアビー」』

- **「知る・学ぶ・働く」を支える情報アクセシビリティの確保を実現する**
＜主な機器・サービス＞

No	企業名
10	株式会社ユニティ『あそんでまなぶ! for スクール』
11	株式会社よむべえ『文字認識音声拡大読書器 快速よむべえ』
12	GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社『電子印鑑GMOサイン』
14	KDDI株式会社『My auアプリ / My UQ mobileアプリ』
15	株式会社SmartHR『SmartHR 勤怠管理機能』
17	Uni-Voice事業企画株式会社『耳で聴くWebサイト』

「情報アクセシビリティ好事例2025」として 取り上げる主なポイント

審査項目(2)障害当事者等のニーズを踏まえた開発

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ アンケートだけでは見えない「現場のリアルな困りごと」 を把握

<主な機器・サービス>

No	企業名/機器サービス名
1	株式会社アイ・オー・データ機器『Memet』
2	株式会社アルカディア『ボイスエイド2』
4	株式会社イル『みまもり イル!』
5	認定NPO法人ウィーログ『WheeLog!』
6	株式会社コンピュータサイエンス研究所『視覚障がい者歩行支援アプリEyeNavi』
7	ソノヴァ・ジャパン株式会社 『デジタルワイヤレス補聴援助システム「ロジャー タッチスクリーン マイク 3」』
9	株式会社フォーバル『きづなパートナー』
10	株式会社ユニティ『あそんでまなぶ! for スクール』
13	Hubbit株式会社 『話せる伝言板「ケアビー」』

■ ユーザーとの継続的な共創を実現

<主な機器・サービス>

No	企業名/機器サービス名
3	特定非営利活動法人位置情報サービス研究機構『時刻表カウントダウンアプリ「駅.Locky」』
8	合同会社ファービヨンド 『トイレ情報共有マップくん』

■ 障害当事者の社員が開発に深く関与

<主な機器・サービス>

No	企業名/機器サービス名
11	株式会社よむべえ 『文字認識音声拡大読書器 快速よむべえ』
14	KDDI株式会社 『My auアプリ/My UQ mobileアプリ』
15	株式会社SmarterHR 『SmarterHR 勤怠管理機能』
17	Uni-Voice事業企画株式会社 『耳で聴くWebサイト』

「情報アクセシビリティ好事例2025」として 取り上げる主なポイント

審査項目(3)企業としての情報アクセシビリティ確保に向けた取組

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ 全社的なアクセシビリティ文化の醸成

<主な機器・サービス>

No	企業名/機器サービス名
2	株式会社アルカディア『ボイスエイド2』
4	株式会社イル『みまもり イル!』
6	株式会社コンピュータサイエンス研究所『視覚障がい者歩行支援アプリEyeNavi』
12	GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社『電子印鑑GMOサイン』
13	Hubbit株式会社『話せる伝言板「ケアビー」』
14	KDDI株式会社『My auアプリ/My UQ mobileアプリ』
15	株式会社SmartHR『SmartHR 勤怠管理機能』

■ 他機関との連携を通じた、 社会全体のアクセシビリティ向上への貢献

<主な機器・サービス>

No	企業名/機器サービス名
5	認定NPO法人ウィーログ『WheeLog!』
7	ソノヴァ・ジャパン株式会社『デジタルワイヤレス補聴援助システム「ロジャー タッチスクリーン マイク 3」』
8	合同会社ファービヨンド『トイレ情報共有マップくん』
9	株式会社フォーバル『きづなパートナー』
17	Uni-Voice事業企画株式会社『耳で聴くWebサイト』

■ ユーザーに寄り添うサポート体制の整備

<主な機器・サービス>

No	企業名/機器サービス名
1	株式会社アイ・オー・データ機器『Memet』
3	特定非営利活動法人位置情報サービス研究機構『時刻表カウントダウンアプリ「駅.Locky」』
9	株式会社フォーバル『きづなパートナー』
10	株式会社ユニティ『あそんでまなぶ! for スクール』
11	株式会社よむべえ『文字認識音声拡大読書器 快速よむべえ』

③ 各製品の概要・審査結果

1. 株式会社アイ・オー・データ機器 memet

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>ご高齢者が簡単に利用できるテレビ電話端末</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体端末利用者はコンセントを指すだけで面倒な設定やインターネットの手配不要 ● 物理ボタン操作や画面のスラント形状で使いやすい筐体設計 ● テレビ電話のみの単機能に特化することでレクチャー無しで無理なく利用可能 ● 複雑な操作は可能な限りアプリに集約
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 音と視覚情報(画面明滅)による着信案内 ● 「映像と音声によるコミュニケーション」が可能 ● 機能ごとに異なるボタン形状
<p>問合せ先</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● memetセールスサイト https://www.iodata.jp/ssp/memet ● IODATAサポーター情報 https://www.iodata.jp/support ● memet「情報データアクセシビリティ好事例」に関するお問合せ fhirata/atmark/iodata.jp 担当:平田 (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。



使い方の動画リンク

<https://www.youtube.com/watch?v=BZKAL8eZnk0>

当事者ニーズを
踏まえた開発

- 本体利用者はコンセントを指すだけなので使い始めのレクチャーが不要
- 誤操作しにくい物理ボタンでの操作
- 画面が見やすくボタンを押しやすいスラント形状
- 必要な操作を促すガイダンスをボタン直上に表示
- 操作ボタン表示を期待動作「電話(=電話をかける)」とする事で分かりやすい操作感
- 画面の大きさや画面UIのヒヤリングにより高齢者のニーズに対応
- 部屋の様子や目の前に座ったときに自然に1~2人が映る画角
- 機能ごとに異なるボタン形状
- 対話に集中できるように本体側は自身のスワイプ映像なし
- 不在着信履歴はトップ画面に色分けされて表示(折り返すと色アラートは自動で解除)
- 着信時に視覚的にも気付けるよう、画面表示をコントラスト差の大きい明滅になるよう実装

企業としての
組織的な取組

- メールや電話などのアフター顧客サービス対応を実施

審査結果の概要



徹底したシンプルさと直感的な操作性

- IT機器が苦手な高齢者でも迷わず使えるよう、機能をビデオ通話に絞り込み、大きくて分かりやすい物理ボタンだけで操作できる点を高く評価。
- 設定不要ですぐに使える手軽さも、導入のハードルを下げている。



当事者の声を深く反映した開発プロセス

- 地域の介護施設やシニア層への徹底したヒアリングと試作テストを重ね、「操作が不安」「続けられない」といった当事者の本質的な課題を抽出。
- その声を製品設計に忠実に反映させた開発姿勢が優れている。



安心して使い続けられる設計とサポート体制

- 登録した相手からしか着信しない安全設計や、光と音で着信を知らせる工夫など、使う人の不安を取り除く配慮が随所に見られる。
- また、丁寧なサポート体制を整えるなど、企業としてユーザーに寄り添う姿勢も評価された。

2. 株式会社アルカディア ボイスエイド2 (VoiceAid2)

株式会社アルカディア ボイスエイド2 (VoiceAid2)

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>日本語テキストを音声に変換(音声合成)するスマートフォン・タブレットのアプリです。App Store、Google Play からインストールできます。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 発声することが困難な人による他者との音声コミュニケーションを、テキスト入力により実現するアプリです。 ● 煩わしいテキスト入力をしなくとも、定型文や可変部の選択により簡単に音声合成をすることができます。 ● 利用場面を想定した定型文をカテゴリに分類しているため、選択が容易です。 ● 頻繁に使う音声を登録することで、2回目以降は素早く発声することが可能です。 ● 定型にとられない自由文の音声合成も可能です。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリのUIでは大きなボタンを採用して、定型文を選択しやすくしています。 ● シンプルで直感的にわかりやすい操作で、音声を合成できます。 ● アプリ内に使い方のチュートリアルを用意しています。 ● 問い合わせページ、電話番号も用意しました。
<p>問合せ先</p>	<p>https://www.arcadia.co.jp/contact</p>



ホーム画面です。



定型文と可変部の表示例です。
左にあるプレイボタンを押すと、テキストを読み上げます。
右にあるハートボタンを押すと、お気に入りに登録します。



お気に入りBOXの作成画面です。

当事者ニーズを踏まえた開発

- 非常時の弊社サービスSpeeCAN RAIDEN(一度の操作で様々な媒体に一斉配信するインターネットサービス)で実際に配信されたテキストより、定型文を選定しました。
- 日常生活、買い物、病院などでの利用場面を網羅しています。
- 分類やテキストの数、アイコンのサイズを障害当事者への聴き取りに基づいて設計しました。
- 前バージョンよりも、聴きやすく、自然な合成音声に改良しました。
- 合成音声の「お気に入りBOX」を利用場面に合わせて自由に作成できるようにしました。

企業としての組織的な取組

- 以下の発声発語訓練用アプリを研究開発し、配布しています：
 - ✓ DAF+N:自分の話した音声を少し遅らせて自分にフィードバックするアプリです。
 - ✓ ソニックプリント:外国語の発音練習や発声機能障害のある方による発声発語訓練などを行うためのアプリです。
- 聴覚障害者用に、音声を使わず、ブラウザーのチャットで119番通報するためのサービスである「NET119」を開発、運営しています。
- 弊社は消防向けのサービスも提供しており、消防職員の操作 UI には、ストレスを与える色を避け、大きなボタン、シンプルな選択肢で実装するように心がけております。

審査結果の概要



発声障害者の「声で伝えたい」思いを支援するコミュニケーションツール

- 自分の声で話すことができない発声障害者のコミュニケーションを支援するため、ウェブコンテンツアクセシビリティ標準に対応し、音声合成で音声を出すスマートフォンアプリである。
- タブレットや外部ボタンでの操作も可能で、ALSのユーザーにも対応できる点が評価された。



当事者の声とアクセシビリティに配慮した設計

- 実際のユーザーへのヒアリングを通じて操作性を向上させ、大きなアイコンや簡単な選択操作、定型文の活用により身体負担を軽減している点が評価された。
- 視覚障害者向けにスクリーンリーダー対応等もなされており、幅広い場面での利用を想定している点が評価された。



少数ニーズに応える企業姿勢と継続的な開発

- ユーザー数が少ないながらも、そのニーズに応えるため開発を継続している企業姿勢が高く評価された。
- 複数の支援アプリを展開し、ユニバーサルデザイン開発に取り組むとともに、情報アクセシビリティに関するセミナー受講など、積極的な姿勢が見られる点が評価された。

3. 特定非営利活動法人 位置情報サービス研究機構 時刻表カウントダウンアプリ「駅.Locky」

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>駅.Lockyは、電車の次の発車までの時間をカウントダウン形式で表示する時刻表アプリです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリ起動時に現在位置から最寄駅を素早く検索し、最寄駅の次の発車までの時間のカウントダウンを表示します。 ● 普段利用する駅と電車の行き先を時間帯別に設定しておくことで、アプリを起動してすぐにその電車のカウントダウンを確認できます。 ● Apple Watchアプリにも対応し、Apple Watch上でも普段利用する電車のカウントダウンを確認できます。 ● カウントダウンを音声案内する機能があり、歩きながらスマートフォンの画面を見なくても残り時間を確認することができます。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● VoiceOver / TalkBackによるスクリーンリーダー機能と、キーボードによる操作に対応しており、視覚障害や運動障害のある方もアプリを利用することができます。 ● カウントダウンを音声案内する機能により、視覚障害の方が都度画面を操作することなく残り時間を確認することができます。 ● 文字の拡大機能に対応しており、読みやすい文字サイズで利用することができます。
<p>問合せ先</p>	<p>特定非営利活動法人位置情報サービス研究機構 駅.Lockyサポート窓口 Email: eki.locky/atmark/lisra.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>

電車の発車までの時間を
カウントダウンで見やすく表示

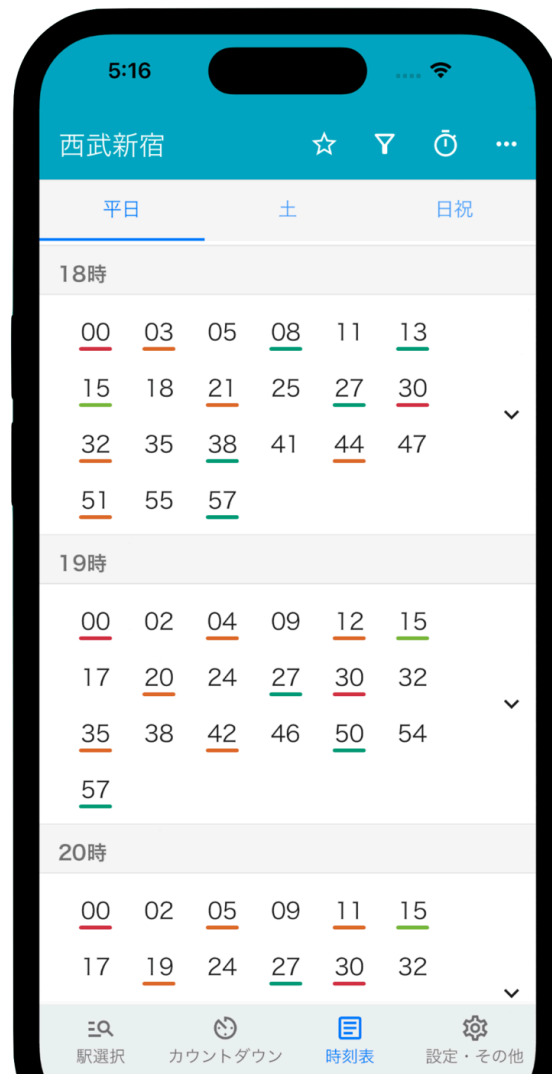


音声案内
にも対応

あと4分55秒

日本全国の駅の時刻表に対応

※時刻表データはユーザー提供のため、
全ての駅には対応しません。



当事者ニーズを
踏まえた開発

- アプリストアでのレビュー、メールでの問い合わせに加えて、コミュニティフォーラムにてユーザーの皆様からの意見を募集しており、そこで頂いた意見を積極的に取り入れて開発を行っています。
- 音声案内機能やアクセシビリティの機能については、そこで頂いた意見をもとに開発を行いました。

企業としての
組織的な取組

- 開発・運営は一人で行っており、組織としての取組は特に行っておりません。

審査結果の概要



多様な障害に対応した機能設計

- 音声カウントダウンにより、視覚障害者が端末を操作せずに残時間を把握できる点が高く評価された。
- VoiceOverやキーボード操作、色知覚への配慮に加え、点字ディスプレイへの対応により盲ろう者も利用可能とするなど、多様なユーザー特性に配慮した技術的な実装がなされている点が評価された。



コミュニティとの共創による当事者ニーズの反映

- 開発当初からユーザーコミュニティを形成し、当事者の声を直接機能改善に反映させる開発プロセスが確立されている。また、時刻表データを有志から収集するなど、ユーザー参加型の仕組みを構築し、実際のフィードバックに基づいた改善を継続している点が評価された。



個人開発ながら高い専門性と技術基準を追求する姿勢

- 1名体制というリソースの制約がありながらも、サポート体制の工夫やセミナー受講などを通じて主体的に改善に取り組んでいる点が評価された。
- JIS X 8341-3のレベルAAAの項目への準拠を目指すなど、高い意識と熱意が評価された。

4. 株式会社イル みまもり イル！

株式会社イル みまもり イル！

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>普段履きの靴に入れるだけで、認知症の方などの現在地や行動履歴をスマホで確認できる、GPS搭載の高齢者見守りスマートインソールです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<p>認知症の方や高齢者が外出する際、従来の見守りタグ等は「持ち忘れ」や「装着の拒否(忌避感)」が発生しやすいという課題がありました。本製品は靴の中に敷く「インソール型」であるため、ご本人が機器を意識することなく携帯でき、ご家族は離れた場所からでもスマートフォンアプリを通じて、位置情報や歩数などの活動量、転倒の可能性を確認することができます。これにより、ご本人の行動を制限することなく、ご家族や支援者が安心できる見守りが可能となります。</p>
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<p><視覚的配慮> アプリ画面のデザインにおいて、主要なテキストやボタンは背景とのコントラスト比(4.5:1以上)をなるべく確保しつつ、OSの文字サイズ拡大設定に追従する仕様としています。また、色だけに依存せず、アイコンとテキストラベルを併記することで情報を識別しやすくしています。スクリーンリーダー利用時は、主要機能(現在地確認など)へ素早くアクセスできるよう、読み上げ順序やフォーカス順序を論理的に構成しています。</p> <p><聴覚・身体的配慮> 通知は音だけでなく、画面表示によっても確認可能な設計とし、聴覚のみに依存しないよう配慮しています。ハードウェア(インソール)は、触覚のみでも形状が分かりやすく、靴への出し入れや充電ケーブルの接続が容易に行えるよう設計されています。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>問い合わせフォーム：https://www.in-iru.com/contact 担当者名:石川高志 TEL:080-4122-8895 Email: ishikawa.Takashi/atmark/in-iru.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>

株式会社イル みまもりイル!



株式会社イル みまもり イル！

当事者ニーズを
踏まえた開発

在宅介護者、ケアマネジャー、施設職員等へのヒアリングを実施し、「持ち忘れ」や「装着の違和感」といった現場の課題を抽出しました。これに基づき、当事者が意識しないIoTデバイスとして「インソール型」を採用しています。また、高齢の介護者(老老介護)でも利用しやすいよう、ユニバーサルデザイン思想を取り入れたUI設計を行い、文字情報と色彩・形状で直感的に認識できるように開発されています。

企業としての
組織的な取組

当事者の声を製品へ反映するため、電話に加えてメールや問い合わせフォームなどの「相談窓口」を設置し、聴覚や発話に困難がある方でも連絡可能な体制を構築しています。収集したフィードバックは、「現場の声の傾聴・課題特定・技術による解決策の模索・製品反映」という一連の「効果的な改善サイクル」を通じて、継続的な製品開発に活かしています。また、取扱説明書はWebや電子データなどのテキストベースで提供し、スクリーンリーダー等の支援技術を用いた閲覧を妨げない情報提供を行っています。

審査結果の概要



本人の自由と安全を両立する製品設計

- 使い慣れた靴にGPS内蔵インソールを入れるだけで利用できるため、持ち忘れや装着拒否といった従来の課題を解決している点が高く評価された。また、本人の監視感を軽減しつつ、単体通信機能により早期発見を可能にするなど、当事者の尊厳と安全確保を両立した実用性が支持された。



見守る側の負担を軽減するアクセシビリティへの配慮

- 見守る家族や支援者が直感的に操作できる分かりやすいアプリ設計がなされている点が評価された。また、インソールを入れた状態で充電できる利便性や、スマートフォンの操作が難しい高齢者や聴覚障害のある方にとっても有益なセーフティネットとして機能する点が評価された。



現場の声を組織的に製品改善へ反映する体制

- 介護現場や家族からの声を全部門で共有し、製品改善に反映させる組織的な体制が確立されているほか、JIS規格や行政ガイドライン、人間中心設計に基づいた開発を行っている。こうした企業として当事者に寄り添い続ける真摯な姿勢が評価された。

5. 認定NPO法人ウィーログ WheeLog!

認定NPO法人ウィーログ WheeLog!

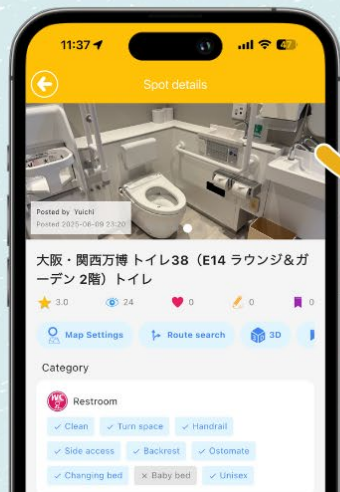
<p>機器・サービスの概要</p>	<p>WheeLog!は、車いす利用者や高齢者など移動に制約のある人が、外出や日常生活において安心して行き先を選び、移動できるよう支援するユーザー参加型バリアフリーマップサービスです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● WheeLog!は、車いす利用者や高齢者、移動に不安を抱える人およびその支援者等が、外出前や旅行・日常の移動計画時に、スマートフォンやPCを通じて全国の公共交通施設、商業・観光・宿泊施設などのトイレや段差、通路幅、入口形状、食事支援の有無といった情報を確認できるサービスです。 ● 従来は設備の有無だけでは判断できなかった利用可否を、実際に現地を訪れた利用者による写真・コメント・移動ログの投稿によって可視化することで、「行けるか分からない」という不安を「誰かが行けたから自分も行ける」という判断へと変えることを可能にしています。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● スクリーンリーダーに対応したテキスト構造とし、視覚障害のある方でも情報を取得できる設計としています。 ● ピンチ操作を必要としない地図の拡大・縮小ボタンや、スクロール補助ボタンを実装し、操作が困難な利用者にも配慮しています。 ● 写真付き投稿を基本とし、障害当事者による継続的なユーザーテストを通じて、実際の利用可否が伝わる情報設計と改善を行っています。
<p>問合せ先</p>	<p>認定NPO法人ウィーログ 事務局:info/atmark/wheelog.org (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>

みんなで作るバリアフリーマップ Wheelog!



スポット

車いすで利用できる
施設や設備



走行ログ

車いすで通った道を
地図上に表示



認定NPO法人ウィーログ WheeLog!

当事者ニーズを踏まえた開発

- WheeLog!は、障害当事者の実体験や声を起点として開発・改善を行ってきました。団体代表自身が進行性の筋疾患により歩行困難から車いす利用に至った当事者であり、日常生活や外出時に直面する具体的な困りごとがサービス設計の基盤となっています。
- 開発過程では、車いす利用者をはじめとする当事者への継続的なヒアリングや試作段階でのプロトタイプ検証を行い、実際の利用環境を想定しながら操作性や情報の分かりやすさを確認してきました。特に、設備の有無だけでは判断できない利用可否に対応するため、写真・コメント・移動ログによる体験に基づく情報提供を重視しています。
- 街歩きイベントやワークショップ等を通じて当事者や支援者が実際にアプリを使用し、寄せられた意見をUIや機能改善に反映するなど、当事者参加型の開発サイクルを継続しています。

企業としての組織的な取組

- 認定NPO法人ウィーログでは、製品・サービス単位にとどまらず、組織として情報アクセシビリティに取り組む体制を整えています。開発・運営においては、障害当事者が主体的に関与し、当事者によるユーザーテストを継続的に実施することで、実効性のあるアクセシビリティ確保を図っています。
- 福祉情報工学の専門家が技術責任者として参画し、専門的知見に基づいた設計・検証を行っています。加えて、自治体や教育機関と連携し、授業や地域イベントの中で検証や意見交換を行うなど、多様な立場の視点を取り入れる仕組みを組織的に運用しています。

審査結果の概要



車いすユーザーの実体験に基づく信頼性の高い情報提供

- 車いすの実移動データによる情報収集と提示を行う、ユーザー参加型バリアフリーマップである点が評価された。
- 現地を訪れた利用者の写真・コメント・移動ログが集約され、「行けるか不安」を「誰かが行けたから自分も行ける」という希望に変える点が支持された。



当事者主導の開発と継続的なフィードバック反映

- 代表自身が障害当事者であり、その経験やユーザー参加型イベントを通じて、多くの当事者や専門家の意見を継続的にUI改修や機能改善に反映している点が評価された。
- 写真や移動ログの共有など、実体験に基づく情報提供を重視している点が評価された。

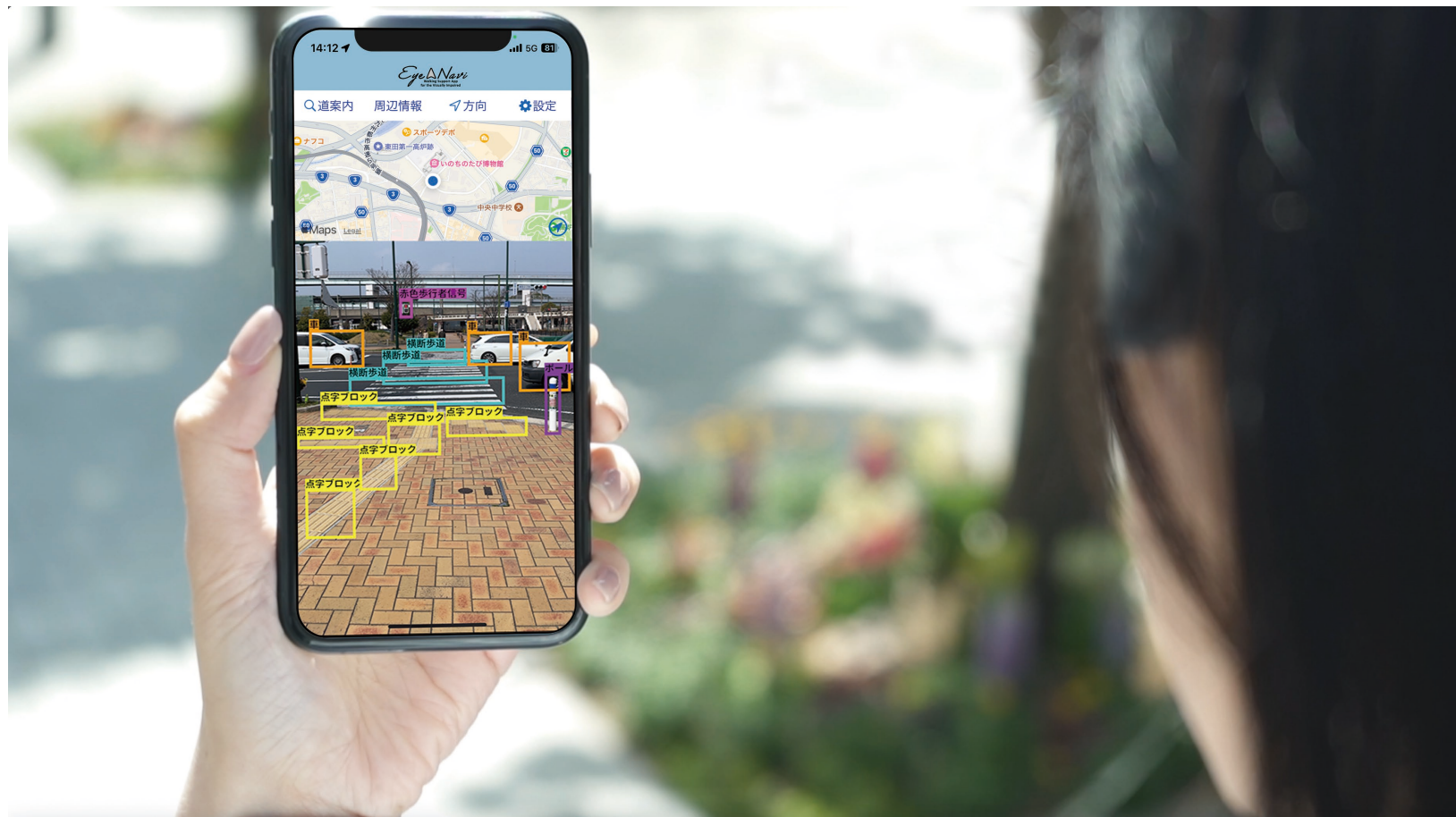


アクセシブルな社会実現に向けた多角的な取り組み

- 開発のみならず、車いすを使った街歩き体験、バリアフリー調査、政策提言など、アクセシブルな社会の実現に向けて様々な社会活動を展開している点が評価された。
- 自治体や教育機関とも連携し、社会全体の意識向上にも寄与している点が評価された。

6. 株式会社コンピュータサイエンス研究所 障がい者歩行支援アプリEyeNavi

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>スマートフォンひとつで目的地までの移動をサポートする歩行支援アプリです。進行方向や経路案内に加え、周辺施設、進路上の障害物、歩行者信号の色、点字ブロックなどをAIで認識し、音声でわかりやすくお知らせします。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<p>外出や移動の場面において、視覚に障がいのある人にとっては周囲の状況や進行方向の把握が大きな課題であった。スマートフォンの各種センサーによる進行方向案内やAIによる障害物検知機能によって、安心して自立した歩行ができるようになる。</p>
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<p>AIにより周囲環境を認識し音声で案内することで、視覚に障がいのある人が画面を見ずに安全に移動できるよう配慮している。VoiceOver対応、簡潔な音声設計、専用機器不要といった点で情報アクセシビリティを確保している。また聴覚に障がいのある人であっても点字ディスプレイ等と接続することで情報を出力することが可能である。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>https://www.eyenavi.jp/ 高田将平 takata/atmark/computer-science.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>



屋外の歩道でスマートフォンを手に持った利用者がアプリを使用している様子。スマートフォンの画面には、前方の交差点の映像が表示され、AIにより歩行者信号、横断歩道、車両、点字ブロックなどが枠線と文字で識別されている。

当事者ニーズを踏まえた開発

EyeNaviの開発にあたっては、視覚障がい当事者へのヒアリングを通じて、外出時や単独歩行における不安や困難を把握することから着手した。特に、進行方向の把握、信号の状態確認、障害物への気づきにくさといった実生活に即した課題が多く挙げられた。

これらを踏まえ、画面を見ることを前提としない音声中心の設計を採用した。開発過程ではプロトタイプを用いた検証を行い、音声案内のタイミングや表現の分かりやすさについて当事者から具体的なフィードバックを得て改善を重ねてきた。特に開発当初はプロトタイプが提示する情報量が多く、歩行中に必要な情報のみに絞り込むことに注力した。

また、白杖や盲導犬利用者が多い実態を踏まえ、併用しやすい操作性にも配慮した結果、両手をふさがずに利用できるネックポーチによる利用方法を推奨するに至っている。

企業としての組織的な取組

株式会社コンピュータサイエンス研究所では、アクセシビリティを特定の製品機能にとどめず、企業活動全体における重要な価値の一つとして位置づけている。視覚障がい者向けサービスの開発を行う企業として、開発段階から当事者視点を重視する体制を整えている。

具体的には、視覚障がい者3名をアドバイザーとして任命し、製品・サービスの評価や検証の段階において継続的に助言・協力を得ている。

社内では、アクセシビリティや障害特性に関する知見を共有し、当事者の利用実態や社会的課題への理解を深める取組を行っている。また、障害の有無にかかわらず、多様な人が関わることを前提としたプロジェクト運営や働き方を意識している。

今後も、アクセシビリティに関する知識や意識の向上を図りながら、誰もが利用しやすい製品・サービスの開発と社会実装に取り組んでいく。

審査結果の概要



当事者との徹底した共創開発プロセス

- 長年にわたり開発初期から当事者や専門家と深く連携。
- 展示会等で得た現場の声を即座に製品へ反映するサイクルを確立し、高い実用性と信頼性を実現している点が評価された。



全社的な推進体制とオープンな外部連携

- 情報アクセシビリティ確保を全社方針と定め、組織横断で取り組む体制を構築。
- さらに外部アドバイザーや信号機メーカー等の他企業とも積極的に連携し、客観性と機能性を高めている点が優れている。



AI技術による高度な歩行支援と拡張性

- AIによるリアルタイムの障害物・信号認識という高度な技術で、視覚障害者の単独歩行を現実的に支援。
- 点字ディスプレイとの連携による盲ろう者への対応など、幅広いユーザーを想定した拡張性も高く評価された。

7. ソノヴァ・ジャパン株式会社
ロジャー タッチスクリーン マイク 3

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>聴覚障害やLiD(聞き取り困難症)/APD(聴覚情報処理障害)の方など、きこえに課題のある方向けの補聴援助システムです。</p> <p>補聴器や人工内耳だけでは聞き取りが難しい騒音下や複数人での会話、教室や会議室といった話者と距離があるような日常のシーンできこえを大幅にサポートします。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高い互換性と操作性でお子さまから高齢の方までどなたでも簡単にご使用いただけます →国内で販売されている多くの補聴器、人工内耳に対応。ボタンひとつで簡単接続。 ● 高い拡張性・接続性 →接続できる受信機の数は無制限で、既存の音響システムやヒアリンググループ、Web会議、音声認識アプリなど、さまざまな機器と組み合わせ利用できます。 ● 雑音下でもクリアな音声を実現 →指向性マイクロホンにより話者の声を的確にとらえ、使用状況に応じてマイクモードと音量を自動調整。さらにデジタル処理によって周囲の騒音を最大限抑制します。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動文字起こしデバイスなどに本製品から明瞭な音声を届けることで、より精度の高い文字起こしが可能です。 ● 電源のオン/オフや本体ボタンは触覚で確認しながら操作可能です。 ● 液晶画面には大きくユニバーサルなアイコンを採用しており、直感的で簡単な操作ができます。 ● 本体のLEDが点灯することで、使用者以外にもミュートなどの機器の設定状況を一目で把握できます。
<p>問合せ先</p>	<p>ソノヴァ・ジャパン株式会社 コマーシャル統括部 マーケティング メール: lifeison.jp/atmark/phonak.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>



耳の聞こえに課題がある方は、補聴器や人工内耳で聞こえを補いますが、高性能な補聴器の場合であっても、集音できるのは1.5メートル程度のため、それより長い距離を集音することは難しくなります。

ロジャーは送信機で集音し、補聴器や人工内耳といった受信機に音声を届け、騒音下や離れた場所でのことばの聞き取りを改善します。



マイク(送信機)と受信機で構成される
ワイヤレスシステム

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 補聴器や人工内耳では、聞き手と話者が1.5m以内に1対1でいる場合で、かつ騒音がある一定レベル以下であれば有効に機能しますが、騒音が多い環境や話者と聞き手の距離が離れているとき、また複数の話者がいる場合などでは、会話が聞き取りづらいことがあるとの声を多く聞きます。フォナックでは、そのような補聴器等のデバイスにおける限界をサポートし、日常の会話はもとより、子どもたちの成長を支える教育現場や、聞き逃してはいけない成人の社会活動における重要なシーンでの聞き取りをサポートすることを目指し、「ロジャー」システムを開発いたしました。
- スイスでの創業から75年以上にわたりグローバルなネットワークで、日々難聴の方のきこえの課題と対峙する聴覚ケア専門家との強い協力関係の下、補聴器やワイヤレス通信機器の研究を重ねています。

企業としての 組織的な取組

- 合理的配慮の観点で、公的な施設(博物館、美術館など)の諸団体と連携し、機器の貸し出しを積極的に行うなどの活動に注力しています。
- 東京大学先端科学技術研究センター(先端研)が取り組むDO-IT Japan プログラム等への協力、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構への情報提供など、きこえに課題を持つより多くの方々への情報発信に取り組んでいます。
- 弊社が行うイベントや動画配信などにおいては、ロジャーを貸し出したり、字幕を徹底するなどの情報保障を整備しています。

審査結果の概要



騒音下や離れた距離でも明瞭な音声を提供

- 補聴器や人工内耳の限界となりがちな騒音下や離れた距離でも明瞭な音声を届けられる点が高く評価された。
- また、受信機接続の制限撤廃による利便性向上に加え、教育機関を中心に幅広い年齢層での長期的な導入実績があり、安定したワイヤレス補聴システムとして信頼を得ている点が評価された。



視覚に頼らない直感的な操作性とユニバーサルな設計

- 本体を傾げるだけのモード変更など、徹底してシンプルな操作性が実現されており、視覚障害や手の不自由な方を含む多様なユーザーが容易に使用できるよう配慮に取り組んでいる点が評価された。



当事者・外部機関との連携による開発と社会的な普及活動

- 開発段階から当事者や学生を巻き込み、現場での検証を重視している点に加え、大学や博物館などの外部機関と積極的に連携し、調査研究や普及に努めている点が評価された。

8. 合同会社ファービヨンド トイレ情報共有マップくん

合同会社ファービヨンド トイレ情報共有マップくん

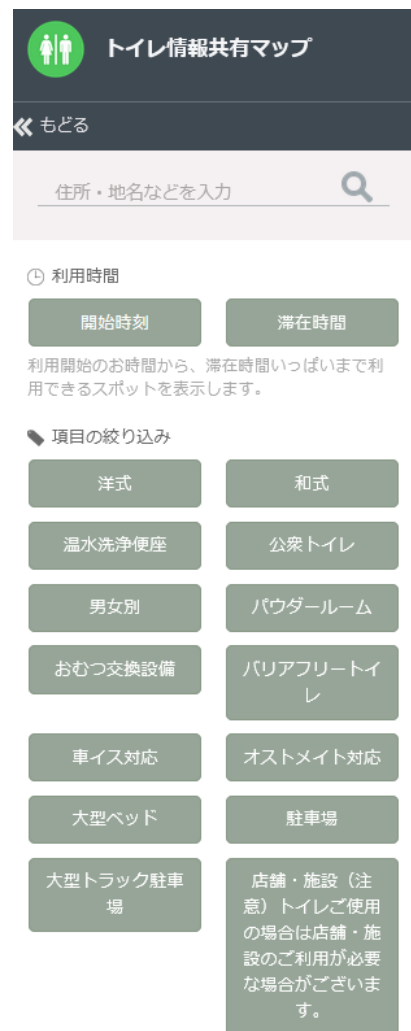
<p>機器・サービスの概要</p>	<p>トイレ情報共有マップくんは、外出先で利用可能なトイレの位置や設備情報を、地図上で誰でも確認・共有できるウェブサイトとモバイルアプリのサービスです。</p> <p>視覚障害、聴覚障害、身体障害、発達障害、高齢者、子育て中の方など、多様な利用者が「安心して外出できる」ことを目的としています。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図表示で現在地周辺のトイレを一覧 ・多目的対応、バリア情報、設備状況をアイコンで明示 ・口コミで実際の利用感を共有 ・表示は地図とリスト両方で確認可能 <p>これらにより、「現地へ行かないと設備が分からない」という不安を軽減します。</p>
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンリーダー対応を前提とした構造(見出し・ラベル・テキスト) ・地図だけでなくリスト表示も提供 ・画像には説明文付き情報(代替テキスト) ・色だけに依存しないアイコンと文字の併記 ・操作が簡単で直感的に理解できるUI設計 <p>これらにより視覚障害、聴覚障害、色覚特性、高齢者など多様な利用者が利用しやすい設計を目指しています。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>合同会社ファービヨンド トイレ情報共有マップくん 事務局</p> <p>問い合わせフォーム https://far-beyond.biz/contact</p> <p>担当者 上野 淳</p> <p>メールアドレス info/atmark/far-beyond.biz</p> <p>(注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>

合同会社ファービヨンド トイレ情報共有マップくん

バリアフリートイレや設備情報が一覧で確認できる画面
画面上に地図が表示され、周辺のトイレ位置がアイコンで示される



バリアフリートイレ、車椅子対応、オストメイト対応、おむつ交換台、大型ベッドなどを検索、絞り込みができる機能



バリアフリー対応トイレの位置を地図上で確認できる画面利用イメージ



当事者ニーズを踏まえた開発

視覚障害者や車椅子利用者、子育て層からの声を収集し、

- ・必要な設備が事前に分かること
- ・画面が読みやすいこと

を重視して開発しました。
実際の利用場面を想定したヒアリングと検証を行っています。

企業としての組織的な取組

アクセシビリティを標準要件として捉え、企画・設計段階から配慮しています。

- ・多様な利用者の意見を反映
- ・アクセシビリティ学習の社内共有
- ・継続的な改善とユーザーフィードバックの反映

という取り組みを進めています。

審査結果の概要



ユーザー参加で育てる「共創型」プラットフォーム

- 誰もが無料で参加できる口コミ形式で、常に最新のトイレ情報を共有。
- 外出時の「トイレが使えなかったらどうしよう」という切実な不安を解消するプラットフォームを構築している点が評価された。



「排泄の尊厳」を社会に問う啓発活動

- アプリ提供に留まらず、学習会の開催や他団体との連携を通じて、トイレ問題に関する社会全体の理解を深める活動を積極的に推進。
- 事業を通じて社会課題の解決に取り組む企業姿勢が優れている。



誰もがアクセスしやすい手軽さとオープンな姿勢

- ユーザー登録不要ですぐに使える手軽さに加え、情報をオープンデータ化することで社会全体の利益に貢献。
- 自治体やイベントとも積極的に連携し、社会実装を進めている点も高く評価された。

9. 株式会社フォーバル きづなパートナー

株式会社フォーバル きづなパートナー

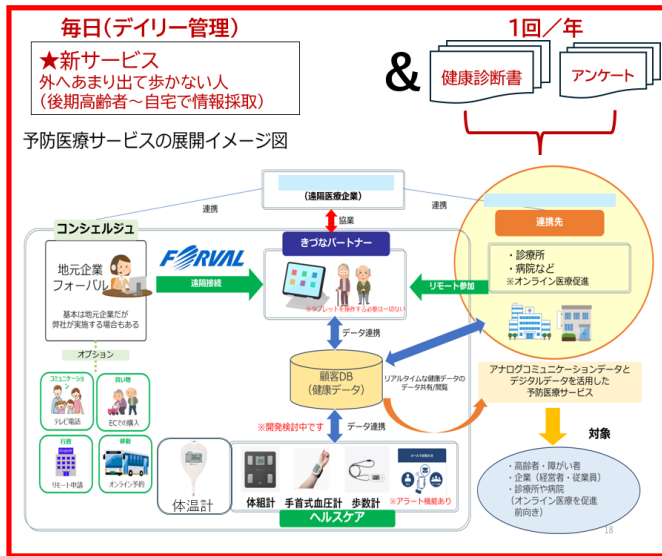
<p>機器・サービスの概要</p>	<p>利用者が一切触らずにタブレットを通したビデオ通話が行え、福祉・医療関連団体の訪問・移動工数削減が実現できるサービスです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォンの操作が難しい高齢者の方であっても、タブレットを置いておくだけで、決まった時間にオペレーターがビデオ通話をかけ、生活支援を受けることができます ● 福祉団体(モニタリング・訪問外の見守り等)や、医療機関(簡易診察・健康相談)が活用することにより、業務効率化と人手不足の解消に繋げることができます。 ● タブレットを遠隔操作することにより、買い物・申請・予約等各種オンラインサービスの利用代行サービスを受ける事ができるようになります。 ● オペレーター側も専用システムからボタン一つで利用者へつなぐことができ、通話内容は自動録音・文字起こしされ、対応結果をあらかじめ登録した関係者(福祉団体・医療機関・家族)へ配信することができます。 ● 家族サービスを利用すれば、家族専用ページから、ご家族の方もボタン一つでビデオ通話することができます。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者に必要な操作は、すべてオペレーターが行う仲介型のサービスです。 ● 視覚が不自由な利用者へは、音声のみの通話で、意思疎通を図っています。 ● 聴覚が不自由な利用者へは、別途難聴者向け支援機器を接続し、スムーズな意思疎通を図っています。 ● 全ろうの利用者へは、別途筆談アプリをタブレットにインストールし、筆談コミュニケーションにて、意思疎通を図っています。
<p>問合せ先</p>	<p>https://www.forval.co.jp/f-japan/kizunapartner/#request</p>

サービスイメージ



一切操作不要でビデオ通話できます

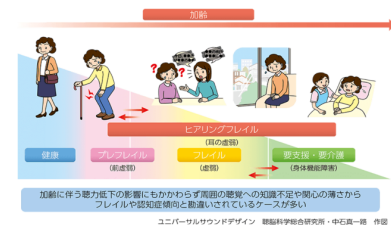
「在宅」でも可能な 健康状態比較&推移 健康指導・栄養指導→改善確認



タニタヘルスリンク社サービス連携により遠隔健康指導を実現

■きづなパートナーは「ヒアリングフレイル」へ対応します。

引用: <https://u-s-d.co.jp/hearingfrail/>



ヒアリングフレイルとは、「聞き取る機能の衰え」による日常生活へのさまざまな影響のことです
ヒアリングフレイルは、聴覚機能が低下して、AやBとコミュニケーションがうまくできず、会話のストレスを感じたり誤解がもたらされることで、ヒアリングフレイルは、認知機能低下による認知症発症リスクを高める可能性があります。高齢になると、個人差はありますが、ほとんどの人がこの状態になります。

年代	男性	女性	変化
60~64	18.8%	10.6%	増加
65~69	43.7%	27.7%	
70~74	51.1%	41.8%	
75~79	71.4%	67.3%	
80~	84.3%	73.3%	

「ヒアリングフレイル」をそのままにしておく...

- 自分に負担を多くしてしまう
- 家にこもりがち
- 人との交流や会話を減らす
- 運動不足で身体機能が低下し
- 認知症のリスクにもつながる可能性があります

◎聞こえについて気軽に相談できる耳鼻科医を見つけよう
「難聴の早期発見」と「治療から予防」

難聴支援機器コミュニケーションとの接続によりヒアリングフレイルへ対応

当事者ニーズを
踏まえた開発

- 弊社は、総務省「R6年度 デジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発」においてスマートフォン講習を実施してきましたが、地区全体の高齢者(約3,000人)に対する講習会参加者(20名/回)の割合から、デジタルデバイド対策の本質に繋がらないと感じました。地域住民の声を聴いたところ、「便利なのはわかっているけど触るのが怖い」という意見が多く寄せられました。そこで「どう触らせるか？」から、「さわらなくてもタブレットが使える」サービスへのパラダイムシフトを図り、サービス開発を行いました。
山口県岩国市での実証導入期間中に、難聴者や全盲の方のサポート希望を受け、会話支援機器(コミュニケーション)の接続や、音声のみでのサポートも拡充させてきました。特に、難聴者対応については、ヒアリングフレイル提唱者の聴能科学総合研究所指導の下、ヒアリングフレイルサポーター認定も取得しています。
- グループ会社であるタニタヘルスリンク社の健康管理アプリとも連動し、外出困難者の健康情報をオンラインで蓄積。蓄積した情報からオンラインによる健康指導・栄養指導が行える取組も開始予定です。

企業としての
組織的な取組

- 当社事業のうち、中小企業顧客のWebサイトコンサルティング事業においては、総務省のウェブアクセシビリティチェックに基づいた解析レポートを提出する様義務付けられており、組織としてアクセシビリティへの取り組みを実施しています。
- IT活用に課題を抱える福祉事業者の方へ、弊社が伴走支援をしています。弊社による伴走支援を通じて「きづなパートナーサービス」を実業務に定着させ、経営課題の解決につなげるご支援をしています。

審査結果の概要



端末操作不要な自動応答ビデオ通話による生活支援

- 利用者の声を受け、利用者が端末を操作せず、自動応答のビデオ通話でオペレーターによる完全代行を実現した点が高く評価されています。これにより、機器操作に不慣れな高齢者でも負担なく利用でき、オンラインでありながら対面会話のような温かみのあるサポートを提供している点が支持されています。



多様な障害特性への対応企図

- 全盲や難聴者などのニーズを丁寧に汲み取り、非支援者の端末操作は不要とするサービス設計としているほか、筆談アプリや音声対話支援機器との連携を可能にしている点が評価されている。



現場実証に基づく改善と利用者・支援者への配慮

- 自治体と連携した大規模な実証実験を通じてブラッシュアップを行い、利用者だけでなく支援者(福祉団体)の業務負担削減まで考慮したシステムを構築している点が評価されている。

10. 株式会社ユニティ あそんでまなぶ！for スクール

株式会社ユニティ あそんでまなぶ！ for スクール

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた集中力・認知能力が向上できるアプリケーションです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「あそんでまなぶ！ for スクール」は子ども向けに開発された学習アプリですが、高齢者や障がい者に対しても集中力を高める脳トレを目的とした学習機能を提供しています。一般的な学習アプリでは「複雑な操作が難しい」「タブレットやスマホに抵抗感がある」などの課題がありますが、「あそんでまなぶ！ for スクール」では視覚的・動作的に配慮したユニバーサルデザインを取り入れ、年齢や身体能力に関わらず多様な人が利用できる学習アプリになっています。 ● 60種類の多彩なコンテンツが収録されており、記憶力・判断力・集中力・計算力などを鍛えることができます。年齢を問わず楽しめるコンテンツで楽しく続けられる習慣作りに役立ちます。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● タップしやすいUIの配置や大きなボタン設計で直感的に操作が分かるデザインとなっています。また、コントラストが確保されたテキストで色の識別が難しい方でも見やすい配置となっています。 ● 視覚的なインターフェイスでの操作が中心となっており音声に頼らず利用できることで聴覚に制限があるユーザーにも楽しめるアプリとなっています。 ● 収録されているコンテンツの演出面では、光の点滅やフラッシュを無くし光感受性発作のリスクを最小限に抑えています。 ● タップとスワイプだけの簡単な操作で手先の操作が苦手な方でも使用できます。
<p>問合せ先</p>	<p>問い合わせフォーム: https://www.uni-ty.com/for school/#contact</p>

あそんでまなぶ！ for スクール



あそびながら集中力を高める脳トレアプリケーション

タップ

スワイプ

- ・大きくタップしやすいボタンを設置
- ・コントラストが確保された分かりやすい文字レイアウト
- ・BGMのON/OFF切り替え機能を搭載
- ・タップとスワイプで遊べるシンプルな操作

60種類の多彩なコンテンツが収録



当事者ニーズを
踏まえた開発

- 特別支援学校や特別養護老人ホームなどでアプリケーションの実証を行い、色覚的に配慮したテキストやタップしやすいボタンの形状や大きさなど細かな修正を重ね、直感的な操作が可能なインターフェイスや音と視覚の反応で認知機能の負荷を軽減させる工夫を施しています。
- 特別支援学校や放課後デイサービスなどの100施設以上での導入を経て、当事者の操作感や教師・職員など現場の意見を収集し、視覚的・動作的に配慮した画面設計など、より利用しやすいアプリケーションを目指して開発しております。また、教員の要望に応えた学習コンテンツ作りにも力を入れています。

企業としての
組織的な取組

- 当社は子ども向けの知育アプリケーションを開発しており、誰にでもわかりやすく使いやすいデザインを意識しています。開発チームでは文字の大きさや色のコントラスト、操作のしやすさなどを意識し、年齢や能力に関係なく直感的に使用できることを目指しています。
- JIS X 8341シリーズやWCAG 2.1などのアクセシビリティの基準に準拠したホームページを作成、問い合わせ窓口の整備など、組織的にアクセシビリティの向上に取り組んでいます。

審査結果の概要



多様な障害特性に配慮したサービスデザイン

- 読解レベルの達成基準(AAA)に対応し、色覚異常への配慮も確認できる点が評価された。
- 十分なコントラスト確保、大きなボタン設計、統一された操作インターフェースにより、弱視や手先の操作が苦手な方でも使いやすい点が評価された。



教育現場との連携による当事者ニーズの反映

- 直感的な操作や音と視覚の反応で認知負荷を軽減する工夫がされている点が評価された。
- 養護学校との共同開発や、特別支援学校など100施設以上での導入実績があり、教育現場で試行が行われている点が評価された。



組織的なアクセシビリティ向上への取り組み

- JIS X 8341シリーズやWCAG 2.1等の基準に基づき自己評価を実施し、問い合わせ窓口の整備など、組織的にアクセシビリティ向上に取り組んでいる点が評価された。
- 子どもが迷わず遊べる操作しやすさを最優先した結果、高齢者等にも使いやすいアプリとなっている点も評価された。

11. 株式会社よむべえ
音声拡大読書器 快速よむべえ

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>音声読書器『快速よむべえ』は、視覚障害者や弱視者が印刷物の内容を音声や拡大表示で把握できる機器です。行政文書や郵便物などへの自立した情報アクセスを支援します。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚障害者が、日常生活や社会参加の場面で印刷物の情報を取得可能とする音声読書器 ● 印刷物を卓上に置くだけで、カメラ撮影と高精度OCRにより文字認識し、音声読み上げ ● 生成AIを活用し、文章の要約、説明、翻訳を行うことで内容理解を支援 ● 必要な情報のみを抽出して読み上げる機能(例:賞味期限、要点部分)を搭載 ● 外部ディスプレイに接続することで、弱視者向けの拡大読書器としても利用可能 ● 視力状態の変化に応じて、音声読書と拡大読書を切り替えながら継続利用が可能
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚に依存しない操作を可能とする、物理ボタンと音声ガイダンスによる操作体系を採用 ● 操作内容を音声で案内し、二段階操作により誤操作を防止 ● 状態変化やエラーについて、必ず音声でフィードバックする設計 ● 音量や読み上げ速度などの設定を利用者ごとに保存し、継続利用を支援 ● 墨字版、点字版、音声CD、オンライン版など複数形式の取扱説明書を提供 ● 弱視者に配慮した拡大表示や配色調整が可能な表示設計
<p>問合せ先</p>	<p>問い合わせフォーム: https://www.yomube.co.jp/information/ 電話番号: 050-1791-2070</p>

よむべえ
YOMUBE is for the visually impaired.



音声読書器『快速よむべえシリーズ』は、
全てのモデルが“拡大読書器”
としても使えます。



印刷物を置く

原稿ガイドに合わせて、読ませたいものを置きます。

読み取る

音声ガイドと2段階操作で、使いたい機能を確実に。

読み上げを聞く

認識した文字情報を、音声で読み上げます。

快速よむべえ × 生成 AI

1人でも簡単に情報を得られる自立型支援を実現

- ・郵便、チラシ
- ・新聞
- ・銀行通帳
- ・レシート
- ・翻訳
- ・グラフ、写真
- ・画像認識
- ・文字起こし
- ・賞味期限
- ・レシピ
- ・不在票、手書き
- ・カタログ
- ・セキュリティ
- ・書類
- ・切符

当事者ニーズを踏まえた開発

- 開発初期段階から、視覚障害者へのヒアリングを継続的に実施
- 展示会、アンケート、自社メディア等を通じて日常生活上の課題を収集
- 操作内容を音声で案内し、二度押しで実行する方式を当事者の声を基に採用
- 「短く知りたい」「必要な情報だけ知りたい」という要望から、要約や特定項目抽出機能を開発
- 拡大表示の配色や倍率設定を、当事者の評価を基に調整

企業としての組織的な取組

当事者参画を前提とした組織運営

- 社内に視覚障害のあるスタッフが在籍し、視覚に依存しない情報共有や説明方法を日常業務で実践するなど、アクセシビリティを組織文化として定着させている。

継続的な支援体制と社会展開

- 電話・メールによるサポートや利用者との継続的な対話を通じて改善を行うとともに、図書館や自治体など公共施設への導入を進め、地域社会全体の情報アクセシビリティ向上に取り組んでいる。

審査結果の概要



生成AIの活用により「文字以外の情報」へのアクセスを実現

- AIを活用した画像認識により、従来の文字読み上げに加え、写真やイラストの状況説明、要約、手書き文字認識まで可能にした点が高く評価されている。また、預金通帳への対応など、実生活の多様なシーンで視覚障害者が「知りたい」情報にアクセスできる実用性が支持されている。



高齢者や視覚障害者も高精度な機能を迷わず操作できる設計

- スマートフォンの利用にハードルを感じる高齢者や視覚障害者にとっても高精度な機能を迷わず操作できる点が評価されている。また、誤操作を防ぐ物理キーや音声入力、弱視者向けの画面表示調整など、アクセシビリティ・ユーザビリティを追求した設計が評価されている。



当事者参画による開発体制と公共インフラへの展開

- 開発において視覚障害当事者が参画し、課題解決を行う開発体制が確立されている。さらに、図書館等の公共機関への導入を推進し、多言語対応などを含めた社会全体の情報バリアフリー化を目指す姿勢が高く評価されている。

12. GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社 電子印鑑GMOサイン

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>電子文書(PDF)をクラウド上で契約当事者双方で確認し、ボタンをクリックするだけで契約を締結できる電子契約サービスです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来、視覚や身体に障害のある方々は、契約書の署名・押印を一人で行うことが困難でしたが、電子印鑑GMOサインをご活用いただくことで、書面の内容確認から署名・押印までを自ら行っていただくことが可能になります。 ● スマートフォンやパソコンがあれば、障害の有無や居住環境にかかわらず、誰もがどこからでも契約や同意の手続きを簡単に行うことができます。 ● 合意済みの契約書は、自動的にクラウド上に安全に保管されるため、紙のように紛失したり、他人に誤って見られたりするリスクがありません。必要なときにいつでも参照できることで、契約内容の確認や管理も容易になります。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚に障害のある方への配慮 すべてのボタンやリンク、入力フォームなどの要素が音声で認識できるようスクリーンリーダーに対応しています。文字と背景のコントラスト比に配慮し、視認性を高める設計となっています。 ● 色覚多様性をお持ちの方への配慮 色が情報伝達の唯一の手段とならないよう、アイコンやパターン、説明テキストも併用しています。色のコントラストや配色に配慮し、識別しやすさを確保しています。 ● キーボード操作 マウスを使わずに、キーボードだけで全ての操作が可能です。移動や操作のためのキーボードショートカットが整備されています。 ● 操作の明確性と通知 操作手順や状態の変化が明確に伝えられ、利用者が理解しやすいインターフェースになっています。
<p>問合せ先</p>	<p>https://www.gmosign.com/form/</p>

電子印鑑なら GMOサイン



紙と印鑑で取り交わされていた契約書を
電子化するサービスです。



電子署名の操作手順

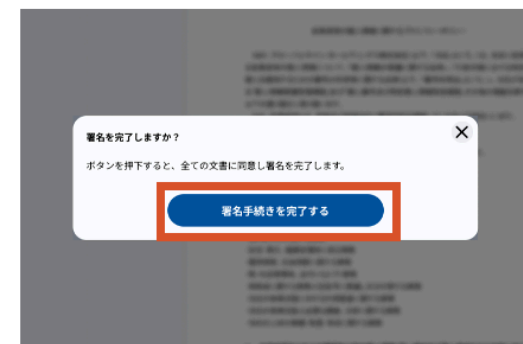
①署名依頼メール



②文書の内容を確認して署名



③署名完了



当事者ニーズを踏まえた開発

- 専門家×当事者×社内横断チームの3本柱で対応
- 専門家 日本適合性認定協会からWebアクセシビリティ検査の第三者評価機関として認められている株式会社インフォ・クリエイツの協力のもと、継続的なアクセシビリティ改善を行っています。Webアクセシビリティ専門の検査員が目視による検査を行い、Webアクセシビリティの規格に適合していない場合には随時修正を行っています。
- 当事者 当事者によるユーザビリティテストを2026年に実施予定です。
- 社内横断チーム アクセシビリティを前提とした開発体制になっており、スクリーンリーダーやキーボードのみの動作テスト実施しています。

企業としての組織的な取組

- アクセシビリティ向上への持続的体制を目的として部署横断で専門チームを設立し、各部署が連携してアクセシビリティ改善に取り組んでいます。
- アクセシビリティ・ユーザビリティを確保したデザインシステムおよびコンポーネントライブラリを開発し、画面実装者のスキルや知識に関わらずアクセシブルな画面の作成が可能となる仕組みを運用しています。
- デザインシステムは、Webアクセシビリティ検査機関の株式会社インフォ・クリエイツによる検査とそのフィードバックを参考にアップデートを続けており、デザインシステム未導入の箇所についても部署横断で相談を受ける体制を設けています。
- JIS X 8341-3:2016の達成基準をもとに社内でのユースケースなどを踏まえた実用的な自社向けガイドラインの作成を行っており、勉強会としてその内容の共有を行っています。

審査結果の概要



多様なユーザーが自立して利用できる電子契約サービス

- キーボード操作やスクリーンリーダー対応、色・文字サイズの調整など、多様なユーザーに配慮されており、障害の有無や居住環境を問わず電子契約を完結できる点が評価された。
- JISだけでなくWCAG 2.1、2.2への高い適応レベルへの対応に取り組んでいる点が評価された。



組織的なアクセシビリティ推進体制と啓発活動

- アクセシビリティの確保と向上を目指し、部署横断的な専門チームを設立し、社内勉強会や自社向けWebアクセシビリティガイドラインの作成を通じて組織的に取り組んでいる点が評価された。
- アクセシビリティを考慮した文書作成方法の啓発活動も実施している点が評価された。



専門機関との連携による品質確保と当事者テストの計画

- 日本適合性認定協会からWebアクセシビリティ検査の第三者評価機関として認められている検査機関と連携し、専門検査員による検査や継続的な改善を実施している点が評価された。
- 専門機関による検査と改善に加え、既に計画されている当事者によるテストが今後求められる。

13. Hubbit株式会社 話せる伝言板「ケアビー」

Hubbit株式会社 話せる伝言板「ケアビー」

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>本製品「ケアビー」は、ビデオ通話機能を軸に、高齢者と支援者間の円滑な連携を実現する高齢者用タブレット端末です。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォンの操作が不自由な独居高齢者が日常生活を送るうえで、以前は家族との定期的・気軽なコミュニケーションに困っていましたが、本製品のボタンひとつでつながるテレビ通話機能によって、離れた家族の顔を見ながらいつでも安心して会話ができるようになります。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本製品は、高齢者側の認知機能の衰えや視力の低下によって操作が困難にならないように、ビデオ通話の着信に際しての応答操作が不要な設計を徹底しています。 ● また、ご家族から高齢者へ送る文字によるリマインド機能やメッセージ機能に使用するフォントやボタンも大きなもので構成し、かつ、高齢者側からは最低限の操作で返答できるように設計を行いました。 ● さらに、聴力の低下した高齢者への配慮として、ビデオ通話の画面下部に大きな文字で字幕を出すことのできる機能を搭載しました。
<p>問合せ先</p>	<p>ケアビー問い合わせ窓口 【電話】050-3138-3535 【HP】 https://services.carebee.io/#Contact</p>

話せる伝言板

ケアビー



利用者平均 **83** 歳

認知症 **111b** 方も利用



大画面で見やすい

A4サイズ相当の大きな画面で高齢者にも見やすく安心



操作ほぼ不要

置いておくだけで自動でつながる簡単設計



自動字幕機能

音声自動で字幕表示耳が聞こえにくい方も安心



事業所連携

医療・介護事業所とオンライン連携予定リマインドも可能

Hubbit株式会社 話せる伝言板「ケアビー」

当事者ニーズを踏まえた開発

【現場密着型のヒアリングと観察】

- 本製品の開発チームは、高齢者施設や当事者の自宅といった実際の生活・ケア現場に赴き、日々の生活動作、介助の様子、コミュニケーションの方法などを直接検証し、問題点の洗い出しを実行しました。また、当事者や介護・支援スタッフへの詳細なインタビューを通じて、言語化されていない潜在的な困りごとや心の負担を丁寧に拾い上げました。

【実証実験に基づく、再現性の高い価値体験】

- 文京区在住の後期高齢者13名を含む、平均87歳の高齢者35名(男性17名、女性18名)を対象に実証実験を行いました。ビデオ通話機能で会話した際の利用者の表情について、映像解析による感情解析を実施したところ、利用の継続によって、幸福感情が高い状態で安定していることが証明されました。私たちは、上記の実証を基に、当事者の幸福度の向上、そして介護側が本当に必要とする機能を追求して開発を進めました。

企業としての組織的な取組

- 弊社では現在「ケアビー」の開発と改善に力を入れており、利用者の方の「使いやすさ」を何より大切に作る体制を社員全員で作ってきました。

【ケアビーの開発で守っていること】

- 私たちは、ケアビーをデザインする上で守っている大切な「考え方」を持っています。これは、高齢の方の認知、視力、聴力、運動能力の変化に合わせて、「操作のしやすさ」や「見え方」をどうすべきか、という細かな配慮の集まりになります。この考え方を社員全員で共有することで、高いレベルで安心できる製品を作ることが可能となりました。

【専門チームと利用者からのフィードバック】

- 製品がちゃんと使いやすい状態にあるかを確認するため、品質を確かめる部署と連携した専門チームを設けています。このチームは、実際にケアビーを使われる方の視点に立って、操作のしやすさなどを厳しくチェックするものです。
- また、介護施設や利用者の方々からいただく「生の声」は、私たちが最も大切に作る財産です。この貴重な声は、ケアビーをより良くするための新しい機能や改善にまっすぐ繋がる仕組みになっています。

審査結果の概要



高齢者の操作負担を最小限に抑えた直感的なインターフェース

- 受信操作不要の自動接続や、高齢者のタブレット操作を最小限にした使いやすいインターフェースにより、認知・身体機能が低下した高齢者でも受動的に利用可能である点が評価された。
- 自動音声認識を使った字幕機能、文字拡大機能など、高齢者の感覚機能低下に配慮されている点が評価された。



介護現場に密着した当事者ニーズの徹底的な反映

- 開発者が介護施設に3ヶ月間住み込み、多数の高齢者のモニターを通して、潜在課題の発掘やニーズの把握、機能の試行と改善を行っている点が評価された。
- 実証実験を通じて現場の声を反映し、使いやすさを徹底追求している点が評価された。



「使いやすさ」を最優先する組織的な取り組み

- 専門チームが利用者視点で厳格な品質検証を行う体制を構築している点が評価された。
- サポーター養成講座を受講するなど、開発に関わる社員が対象者への理解を深め、組織的にアクセシビリティ向上に取り組んでいる点が評価された。

14. KDDI株式会社

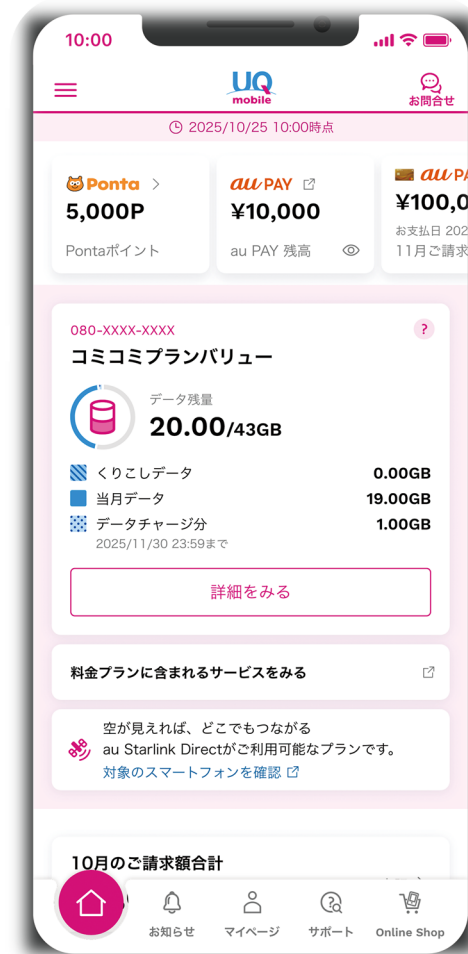
My auアプリ/My UQ mobileアプリ

KDDI株式会社 My auアプリ/My UQ mobileアプリ

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>auおよびUQ mobileのご契約者さま向けに、生活インフラとしての通信サービスに加え、金融・でんき・エンタメなど暮らしに密接に関わるサービスのご契約内容や利用状況を一元管理できるアプリです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎月のご利用料金やデータ利用量、および残量の確認ができます。 ● 通信サービスのご契約プランをはじめ、各種ご契約内容の確認および変更のお手続きができます。 ● 電話窓口に加え、24時間対応のチャットサポートからもお問い合わせができます。 ● auおよびUQ mobileからの大切なお知らせだけでなく、お客さまひとりひとりに合わせた特別なご案内を受け取ることができます。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<p>お客さまから特にご要望の多い「操作性の向上」と「見やすさへの配慮」を優先的に対応しています。</p> <p>①操作性の向上 音声読み上げ機能(スクリーンリーダー)やキーボードのみによる操作に対応しています。また、画像の内容を音声で伝える「代替テキスト」を付与するなど、目からの情報取得が困難な状況でも内容を把握できるよう配慮しています。</p> <p>②見やすさへの配慮 端末の設定に合わせた文字サイズの最適化や、十分なコントラスト比の確保を行っています。また、色のみならず番号などを併用することで、色覚特性を問わず直感的に理解できるデザインを採用しています。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>KDDIウェブアクセシビリティ推進事務局 web-accessibility/atmark/kddi.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>



My auアプリ



My UQ mobileアプリ

KDDI株式会社 My auアプリ/My UQ mobileアプリ

当事者ニーズを踏まえた開発

- 【企画・設計段階での検証】
 専門家によるレビューやユーザーテストを実施し、具体的な課題の把握と改善を行っています。例えば、音声読み上げ機能については、日常的に同機能を利用している当社グループ社員によるテストを実施し、当事者の視点から得られた意見や要望を反映しています。また、ご利用料金のグラフなど、利用頻度の高い機能については、アクセシビリティ基準を満たす設計を前提とした上で、Webアンケートや年代別のユーザビリティテストを実施しています。これにより、「誰もが利用できる(アクセシビリティ)」と「快適に利用できる(ユーザビリティ)」の両立を図っています。
- 【開発プロセスの標準化と継続的改善】
 要件定義書にアクセシビリティ項目を含めてテンプレート化し、標準的な開発プロセスとして確立しています。サービス提供開始後も、お客さまの声の収集や定期的な専門家レビューを継続し、そこで得られた知見を次なる「企画・設計」へ還元。改善プロセスを繰り返すことで、サービスの品質を持続的に向上させています。

企業としての組織的な取組

- KDDIグループではウェブアクセシビリティへの対応を経営における重要な人権課題、またサステナビリティ経営の一環と位置づけ、「KDDIグループウェブアクセシビリティ方針」を定め、組織的に取り組んでいます。グループ横断の事務局を中心とした推進体制のもとWCAG2.2 AA達成に向けた段階的な目標を設定し、ウェブサイトやアプリの対応、浸透活動を推進。GAAD Japan 2025ではその取り組みを対外的にも発信しています。
- ウェブサイトやアプリでの対応においては、具体的な達成基準に加え、達成までのプロセスや運用方法までを独自のガイドラインとして順次拡充させており、社会全体のアクセシビリティ向上に貢献すべく一般公開も目指しています。
- 25年度はグループ配下でウェブサイト・アプリを主管する部門がセルフチェックできるツール・マニュアル類の整備、ブランド表現とアクセシビリティ対応を両立するUIカラーガイドやブランド共通デザインシステムの構築により、サービス品質の向上と標準化を進めています。
- 浸透活動においては、トップから現場までの役割別教材や先行サービスの事例を、会議体や勉強会、Eラーニングで展開。一部は全社員必修としアクセシビリティの理解とスキル浸透を強化しています。

審査結果の概要



多様なユーザーに配慮したアクセシブルなアプリ設計

- グラフの非色依存化、コントラスト補助機能、画像をテキストで代替または補足するなど、色に頼らず理解しやすいデザインに配慮されており、高齢者を含む幅広い層に実用性が高い点が評価された。



当事者参加型プロセスによる継続的な改善

- 企画開発段階から視覚障害のある社員やアクセシビリティ専門家によるレビュー、幅広い年代への調査を実施し、多様なユーザーからのフィードバックを開発に反映している点が評価された。



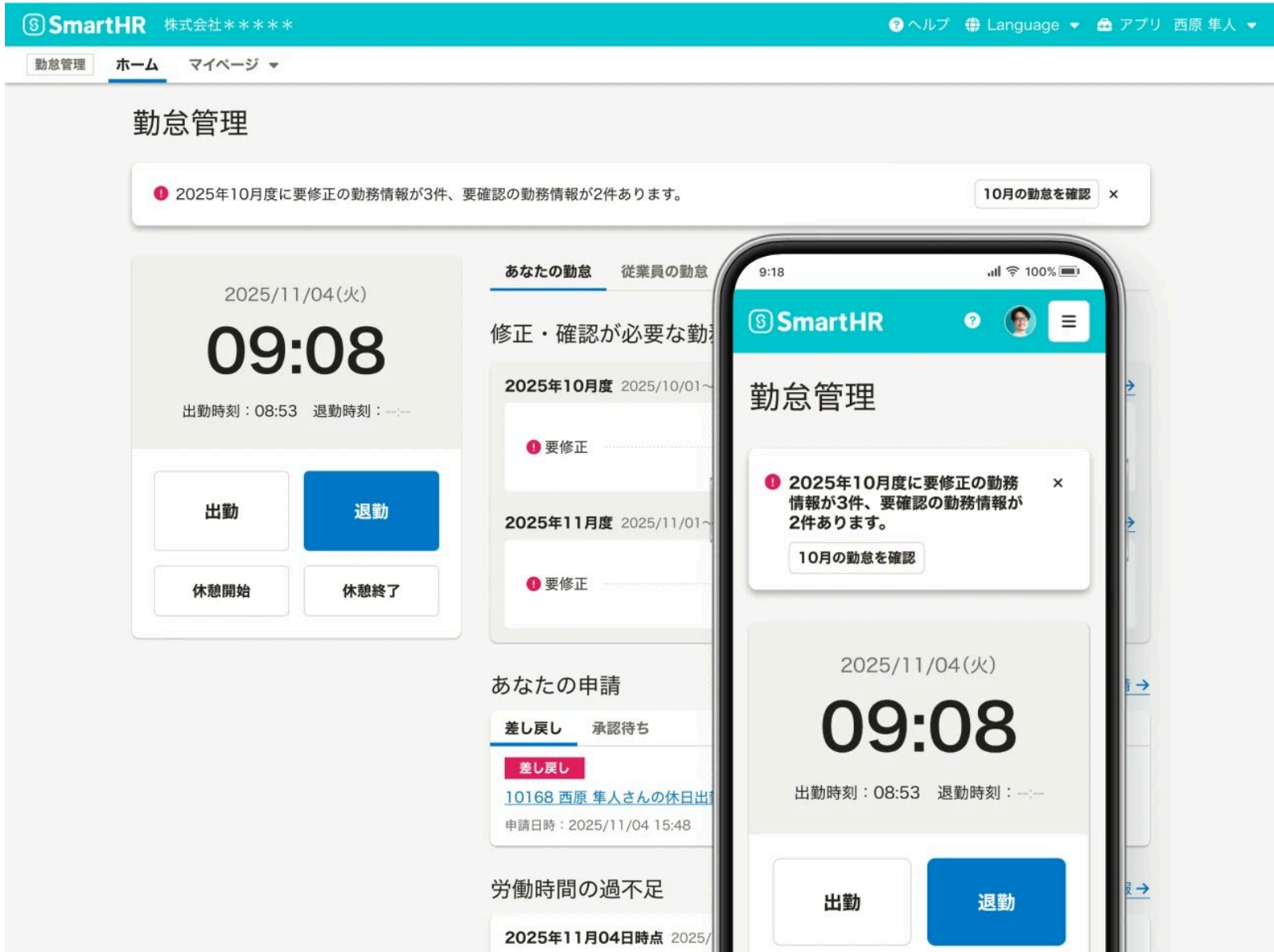
経営層を含む組織的なアクセシビリティ推進

- 人権尊重の視点からアクセシビリティを推進し、グループ全体でロードマップを描き取り組んでいる点が評価された。
- 企画・開発段階からのアクセシビリティ要件の取組み、独自ガイドラインの公開、必須研修などを通じ、組織的・継続的な取組みを推進している点が評価された。

15. 株式会社SmartHR 勤怠管理機能

株式会社SmartHR 勤怠管理機能

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>既存の従業員データを使用して勤怠打刻や休暇の申請などの勤怠管理を行うオプション機能です。(※使用には基本機能にて従業員情報の登録をしておく必要があります)</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員は、勤怠打刻や休暇取得などの申請をすることができます。 ● 上長は、部下の申請承認や勤怠管理を行うことができます。 ● 労務担当者等の管理者ユーザーは、従業員への休暇付与や勤怠データの管理、確認が可能です。 ● 休日の申請等の際に、障害や年齢などに関わらず多くのユーザーが個人情報を他者に共有せずに自身でタスクを完了することができます。 ● 既存の従業員情報と連動しているため、勤怠管理機能を使い始める際には個人情報の入力はありません。多くのユーザーが転記や手入力によるミスを削減できます。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ホーム画面では自身の労働時間の不足や有給不足情報を確認できます。多くのユーザーが認識しやすいよう、テキストに加えて色やアイコン、グラフを用いて表現しています。 ● 勤怠に関わる申請をする画面では、勤務時間や休憩時間がタイムライン状に表示されるほか、入力した申請内容や勤怠の変更点はページ上部にまとめて表示されます。申請前に申請内容を再度確認することができます。 ● 制限時間のあるコンテンツは無く、すべての操作をキーボードで実行可能です。 ● 知的障害者や日本語が母語でないユーザーにも使いやすい品質「やさしい日本語」が利用できます。
<p>問合せ先</p>	<p>https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfNn90Y90eDKdFv438lqVt0QrgCjsuisQil2qD632PpznPiWQ/viewform</p>



当事者ニーズを踏まえた開発

- [アクセシビリティ方針](#)にて、さまざまな特性を持つユーザーが実際に利用できることを目標として掲げ、開発を行っています。
- 機能の開発初期から、障害当事者を含むアクセシビリティ専門チームが開発チームと連携して開発を進め、リリース前にアクセシビリティ試験を実施しました。
- コンポーネントは、社内の弱視ユーザーが強制カラーモードでの試験を実施し、フィードバックをもとに改善を行いました。
- ユーザー企業へのヒアリングや障害当事者ユーザーの操作を見学する中で得た知見をドキュメント化し、デザインシステムに公開しています。
- ユーザーからのフィードバックを開発に取り入れるために、アクセシビリティ専用の問い合わせフォームを設置しています。

企業としての組織的な取組

- 2022年にアクセシビリティの専門チームを結成。ウェブアクセシビリティの専門家(スペシャリスト)と、アクセシビリティの実装知識が豊富なエンジニア、アクセシビリティ試験と障害特性の知識に秀でたアクセシビリティテスターが在籍しています。
- [アクセシビリティ方針](#)で定めたWCAG達成基準は、[ウェブアクセシビリティ簡易チェックリスト](#)という形でガイドライン化し品質基準として定めています。
- テスターが定期的に機能を試験し、見つけた問題はアクセシビリティの実装知識が豊富なエンジニアによって改善が行われています。
- コンポーネントは全てWCAGレベルAを達成しており、アクセシビリティの専門チームが関わりながら継続して改善を行っています。
- アクセシビリティに関心のある開発メンバーを定期的に集め、知見を共有する場を設けています。
- 障害特性のある社員によって支援技術の操作方法の紹介や、特性によって生じるウェブ利用時の課題を社内外に発信しています。

審査結果の概要



全社を挙げたアクセシビリティ推進体制

- 専門チームの設置や全新入社員への研修実施など、製品開発にとどまらず、企業文化としてアクセシビリティを推進する組織的な体制が高く評価された。
- この取り組みが、高品質な製品を生み出す土台となっている。



当事者の声を核とした開発プロセス

- 開発の初期段階から障害当事者を含む専門チームが深く関与し、継続的にフィードバックを製品に反映。
- これにより、机上の空論ではない、利用者の実態に即した実用的なアクセシビリティを実現している。



多様な利用者を支える高度な技術的配慮

- WCAG 2.2への準拠や「やさしい日本語」への対応、完全なキーボード操作の担保など、技術的なアクセシビリティレベルが非常に高い。
- 管理者・従業員といった役割や障害の有無を問わず、誰もが使える設計が優れている。

16. TDI株式会社 D-HELO

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>身の回りの音を認識して、ユーザーに通知することができるApple Watchアプリです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の危険(緊急時のアラート)をろう・難聴者に分かりやすく伝えることで、生活の質を向上させることに貢献しています。 ● 常時、身につけることのできるウェアラブル端末のアプリのため、ユーザーは腕から通知(振動)を直接感じることができ、音に気づきやすくなります。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートウォッチアプリという限られた画面サイズの中で利用者の操作性を損なわないために、必要最小限の機能を選定し、イラストで伝える等の工夫をしています。 ● 音を通知する際の振動の回数、種類の変更ができることで、利用者毎に気づきやすい設定を選択可能にしました。
<p>問合せ先</p>	<p>音の見える化プロジェクトサポート窓口 < support.sound-display/atmark/g.tdi.co.jp > (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>



当事者ニーズを
踏まえた開発

- 実証実験では、ろう・難聴者の方々約50名にご協力いただき、実際の使用感やご意見を直接開発に反映しました。
- 例えば「バイブレーションが弱く、通知に気づけない」という貴重なフィードバックをいただきました。これを受け、本アプリではバイブレーションの種類や振動回数をユーザー自身で設定・変更できるように改善しました。

企業としての
組織的な取組

- 2020年より「音の見える化プロジェクト」として聴覚障害者が社会参加しやすい環境を促進するための活動を実施しています。本製品以外にも聴覚障害者向けのスマホのアプリを開発しています。

審査結果の概要



振動通知による周囲の状況を知

- ・ 緊急車両の接近をスマートウォッチの振動で通知することで、視覚に頼らず周囲の状況を把握できる点が高く評価されている。聴覚障害者が移動中に必要とする情報を的確に伝えることで、日常生活における安全確保に寄与している。



ウェアラブル端末の特性を活かした高い利便性

- ・ スマートウォッチの振動を活用することで、スマートフォン等の画面を見ずに周囲の状況を把握できる点や、アプリを起動していなくてもバックグラウンドで動作する利便性が評価されている。Apple Watch 単体で完結するため、手軽に装着して利用できるユーザビリティの高さも支持されている。



当事者参加型の開発と具体的な機能改善

- ・ ろう・難聴者約50名が参加する実証実験を実施し、「振動が弱い」といった当事者の具体的なフィードバックを基に、振動の種類や回数を設定できるよう改良するなど、ユーザーの声を真摯に反映した開発プロセスが評価されている。

17. Uni-Voice事業企画株式会社 耳で聴くWebサイト

Uni-Voice事業企画株式会社 耳で聴くWebサイト

<p>機器・サービスの概要</p>	<p>視覚障がい者や、盲ろうの方でも簡単に操作できる音声読上げ形式のWebサイトです。</p>
<p>機器・サービスの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 通常のWebサイトは目で見て操作することを前提としているため、視覚に障がいのある人にとっては操作が複雑で、必要な情報にたどり着くのが難しいという課題がありました。 ✓ 耳で聴くWebサイトは、視覚に障がいのある人でも簡単にアクセス・操作できるよう設計されたWebサイトです。ニュースサイトや自治体のホームページなど、日常生活に欠かせない大切な情報を、自分のタイミングで自分で取得することができます。 • 耳で聴くWebサイトは既存のWebサイトの情報を利用して、簡単に作成することができます。 ✓ 既存のWebサイトの情報を利用して別サイトを作成するため、①通常サイトと視覚障がい者向けサイトを無理に混在させる必要がない、一方で、②視覚障がい者向けのWebサイト作成に大きなコストをかけないで済む、という2つのニーズを同時に満たすことができます。
<p>情報アクセシビリティの配慮内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スクリーンリーダーに完全準拠し、点字ディスプレイを介して盲ろうの方も利用可能。 • 弱視の方に配慮したUI設計として、押しやすく十分なコントラストを確保したボタンを採用。テキストサイズや読み上げ速度も、ボタン操作のみで調整可能。 • すべてのサイトを共通UIで構成し、知りたい情報に迷わず素早くアクセスできる設計。 • 問い合わせのしやすさに配慮し、Webサイト内のURL・電話番号・メールアドレスは自動でハイパーリンク化。
<p>問合せ先</p>	<p>https://www.uni-voice.co.jp/contact-us</p>

既存のWebサイトから音声読上げ形式のWebサイト「耳で聴くWebサイト」を作成

企業や自治体のホームページ、商品情報サイトや自治体が発行する防災ガイドなども耳で聴くWebサイトにすることができます。

↓ポータルサイトはこちら(耳で聴くWebサイトを集約した一覧サイト)

<https://site.uni-voice.biz/portal/reading-hp>

【既存のWebサイト】

最新のニュースとお知らせ

- 2026年2月10日 広島市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。
- 2026年2月10日 富士市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。
- 2025年12月11日 中日新聞に「耳で聴くハザードマップ」が紹介されました (2025年12月4日)
- 2025年12月8日 山梨県視覚障害者福祉協会主催「音声コード・耳で聴くハザードマップ講習会」を実施しました。
- 2025年12月1日 年末・年始休業のお知らせ 休業期間2025年12月26日(金)午後12時～2026年1月6日(火)
- 2025年10月27日 秋田市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。
- 2025年10月27日 第29回全国盲ろう者大会 in 宇都宮にて、Uni-Voice Blindアプリをご紹介しました。
- 2025年9月22日 東京都練馬区にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。
- 2025年9月1日 鳥取県米子市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。
- 2025年8月27日 横浜市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。

記事一覧を見る

音声コードUni-Voiceの事例紹介

過去の事例紹介はこちらへ

【耳で聴くWebサイト】

JAVISの音声ニュー

All U Need is Uni-Voice

視覚に障害をお持ちでWEBページの閲覧にお困りのかたへ、JAVIS(日本視覚障がい者協会)で確認いただけます。以下の一覧からお好きなタイトルの音声コード画像をクリックし上げます。スマートフォンをお使いのかたはユニボイスブラインドアプリ(iPhone)を使用することができます。本ページに関するお問合せにつきましては、日本視覚障がい者協会 2796 / FAX: 03-5579-2797 / メールアドレス: info@javis.jp

お知らせの検索

お知らせ一覧

全部で10件あります。

広島市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。

富士市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました。

中日新聞に「耳で聴くハザードマップ」が紹介されました。

気になるタイトルをタップすると音声で詳細を読み上げます

広島市にて、耳で聴くハザードマップの操作説明会を開催しました……

同期

当事者ニーズを
踏まえた開発

Webサイトを利用するにあたって、視覚障がい当事者の方々から以下のような課題が寄せられていました。

- コンテンツ量が多く、知りたい情報にすぐにたどり着けない(全盲・弱視)
- スクリーンリーダーで操作しても、「ボタン」「画像」などとしか読み上げられず、内容や操作対象が分からない(全盲)
- 文字が小さい、または色のコントラストが不十分なため、文字を読み取ることが難しい(弱視)

これらの当事者の声を受け、視覚障がい者が簡単に操作でき、自身で必要な情報を取得できるWebサイトの開発に着手しました。開発段階では、社内の当事者に対して操作性や使い勝手について継続的にヒアリングを行い、実際の利用状況を踏まえながら必要な機能を随時追加しています。また、リリース後も当事者を対象としたアンケート結果をもとに改善を重ね、高いアクセシビリティ水準を維持・向上させています。

企業としての
組織的な取組

弊社では日頃より視覚障がい当事者の方々からの声をもとに製品やサービスの企画開発を行っています。

この”声”というのは、当事者が日常生活において不便と感じていることへの悩みの声です。その声から、弊社では音声コード読み取り用アプリをはじめとして、耳で聴くWebサイトや、ハザードマップの内容を音声で聞くことができる耳で聴くハザードマップの開発を行ってきました。すべての視覚障がい者が晴眼者と同じように「読める」社会を目指し、今後も製品やサービスの開発に取り組んでまいります。

審査結果の概要



「代替サイト」という現実的なアプローチ

- ウェブサイト側の対応を待たずに情報アクセスを可能にする「代替サイト」という独自の手法は、当事者が直面する喫緊の課題に対する、現実的かつ有効な解決策として評価された。



徹底した当事者中心の開発プロセス

- 社内の視覚障害当事者が開発に深く関与するだけでなく、リリース後も利用者からのフィードバックを継続的に製品アップデートに反映。
- 当事者の「困りごと」を起点とする一貫した開発姿勢が、高い実用性を担保している。



ウェブ全体のアクセシビリティ向上への貢献

- 単なる代替サービスの提供に留まらず、元サイトの提供者へ改善を働きかけるなど、ウェブ全体のアクセシビリティ向上に貢献する姿勢が優れている。
- この啓発的な側面も、本取り組みの重要な価値である。